

本資料は、アストラゼネカ本社 AstraZeneca PLC が2023 年 2 月 9 日に発表した、[2022 年第 4 四半期及び通年業績発表プレスリリース](#)を抜粋し、日本語に翻訳したものです。発表の内容及び解釈については英語本社発表版が優先します。

AstraZeneca PLC

公開日時：2023 年 2 月 9 日午前 7 時（英国標準時）

アストラゼネカ、2022 年第 4 四半期・通年の業績を発表
～2022 年の好調な業績と開発パイプラインの進捗により、2023 年の見通しも堅調～
～2025 年以降も業界をリードする収益成長の見通し～

売上収益及び EPS サマリー

	2022 通年			2022 年第 4 四半期		
	100 万ドル	増減 (%)		100 万ドル	増減 (%)	
		実質	CER ¹		実質	CER
- 製品売上	42,998	18	24	10,798	(6)	2
- 提携収入	1,353	54	56	409	(20)	(19)
売上収益	44,351	19	25	11,207	(7)	1
報告ベース ² EPS ³	\$2.12	n/m	n/m	\$0.58	n/m	n/m
コア ⁴ EPS	\$6.66	26	33	\$1.38	(17)	(5)

2022 年通年業績（注記がない限り、伸び率及びコメントは CER（恒常為替レート）ベース）

- 売上収益は、全疾患領域における成長と、2021 年 7 月 21 日よりグループの業績に組み入れられたアレクシオンの売上が加わったことにより、25%増の 443 億 5,100 万ドル
- 第 4 四半期の売上収益には、バキスゼブリアの売上減少が影響。バキスゼブリアを除くと売上収益は、17%増
- マイルストーン収入を含むオンコロジー領域の売上収益は 20%増。オンコロジー領域の売上収益は 19%増。CVRM⁵領域の売上収益は 19%増⁶、R&I⁷領域は 3%増、希少疾患領域は 10%増⁶
- コア売上総利益率は、バキスゼブリアの売上減少はあるものの、オンコロジー及び希少疾患用医薬品のシェア拡大を反映し、6 パーcentageポイント増の 80%。第 4 四半期のコア売上総利益率は、エバシエルの棚卸資産評価損及び製造中止費用の影響を受け 77%
- コア総営業費用は、アレクシオンが加わったこと、及び長期的な持続的成長を実現するための新製品及びパイプラインへの継続的な投資を反映し 23%増
- コア営業利益率は、4 パーcentageポイント増の 30%
- コア EPS は 33%増の 6.66 ドル。2 回目の中間配当を 1 株当たり 1.97 ドルとなることを発表し、2022 年の年間配当は 2.90 ドルとなった。通年のコア税率は、知財インセンティブ制度、利益の地域別構成、前年の税負担の調整が影響し 17%

2023 年のガイダンス（業績予想）の概要（成長率は CER ベース）

- 売上収益は、1 桁台前半から半ばのパーcentage増を見込む
- COVID-19 医薬品⁸を除く売上収益は 2 桁台前半のパーcentage増を見込む
- コア EPS は 1 桁台後半から 2 桁台前半のパーcentage増を見込む

最高経営責任者（CEO）パスカル・ソリオのコメント

「2022 年は引き続き好調な業績と、長期的な成長戦略を実現した年でした。主要市場において過去最高となる 34 件の承認を取得し、camizestrant、datopotamab、deruxtecan、volrustomig といった将来性の高い医薬品の後期臨床試験を新たに開始するなど、開発パイプラインの素晴らしい進捗を遂げました。

2023 年も、COVID-19 医薬品を除く製品において、CER ベースで 2 桁増収を見込んでいます。収益性の改善を継続しながら、パイプラインと新製品上市への投資を続けていきます。今年は 30 件以上の第Ⅲ相臨床試験を開始する予定ですが、そのうち 10 件の薬剤においてはピーク時の年間売上が 10 億ドルを超える可能性があります。

2022 年における研究開発の成功と収益の増加は、2025 年以降も当社が業界をリードする収益成長を実現するための軌道に乗っていることを示しており、2020 年代の終わりまでに少なくとも 15 品目の新薬を提供できる見込みです。」

前回の業績発表以降の主なマイルストーン

- 主な薬事承認：米国では喘息を対象とした *Airsupra* (PT027) の承認を取得。欧州では、リムパーザ⁹の mCRPC¹⁰ (PROpel)、エンハーツの胃がん (DESTINY-Gastric01) 及び HER2¹¹ 低発現乳がん (DESTINY-Breast04)、イミフィンジの胆道がん (TOPAZ-1)、イミフィンジ+イジユドの肝細胞がん¹²、フォシーガの駆出率維持型心不全の承認を取得。日本では、イミフィンジ+イジユドの肝細胞がん (HIMALAYA) 及び NSCLC¹³ (POSEIDON)、カルケンスの未治療の CLL (ELEVATE-TN) など、5 つの承認を取得
- その他の薬事関係のマイルストーン：HR 陽性 HER2 陰性乳がんに対する *capivasertib* (CAPItello-291)、ウイルス性肺炎患者の急性呼吸不全の治療／予防に対する *tozorakimab* (TILIA)、及び MET¹⁴ 過剰発現の NSCLC に対する *Orpathys*+タグリッソ (SAVANNAH/SAFFRON) が米国でファストトラックに指定された。特発性炎症性筋疾患における *サフネロー* が米国でオーファンドラッグに指定された。なお *エバシエルド* の米国緊急使用許可は改訂されており、2023 年 1 月現在、は米国では使用が許可されていない

ガイダンス（業績予想）

2023 年度のガイダンスは、2022 年までの平均為替レートを基にした CER ベースで作成しています。

売上収益は 1 桁台前半から半ばのパーセンテージの増加が見込まれる
COVID-19 医薬品を除くと、売上収益は 2 桁台前半の増加を見込む
コア EPS は 1 桁台後半から 2 桁台前半の増加を見込む

- 予測は困難であるものの、COVID-19 医薬品（*バキスゼブリア*、*エバシエルド*、現在開発中の COVID-19 長時間作用型抗体¹⁵である *AZD3152*）の売上収益は、2023 年度には大幅に減少し、*バキスゼブリア*の収益はごくわずかとなると予想される
- 中国での売上収益は、2023 年度には増加に転じ、1 桁台前半のパーセンテージの増加となる見込み
- 提携事業による売上収益及びその他の営業利益は、提携医薬品の継続的な成長、マイルストーンごとの成功報酬、及び予想される特定の取引によりともに増加する見込み
- コア営業費用は、最近の上市への投資及び新規試験の開始により、1 桁台前半から半ばの増加を見込む
- コア税率は 18-22%を想定している。

当社は、買収に関連する負債に生じる公正価値調整、無形資産減損費用、訴訟和解引当金など報告ベースの業績の重要な要素を信頼性をもって予測できないため、報告ベースのガイダンスを提供することはできません。本発表文の最後にある将来予測に関する注意事項をご参照ください。

為替の影響

仮に 2023 年 2 月から 12 月までの為替レートが 2023 年 1 月の平均レートで推移した場合、2023 年度の売上収益及び 2023 年度のコア EPS は、いずれも CER ベースの業績に対して 1 桁台前半の悪影響を受けると想定しています。

Table 1: 2022 年第 4 四半期売上収益のパフォーマンスの主要要素

売上項目	100 万ドル	増減 (%)		
		実質	CER	
製品売上	10,798	(6)	2	- バキスゼブリア¹⁶の売上減少により 6%減 (CER ベースで 2%増) - オンコロジー、CVRM、希少疾患が堅調に推移
提携収入	409	(20)	(19)	- エンハーツが 1 億 8,800 万ドル (2021 年第 4 四半期: 6,000 万ドル) - テゼスパイアが 3700 万ドル (2021 年第 4 四半期: 0 ドル) - リムパーザが 1 億 5,000 万ドルのマイルストーンを達成
売上収益	11,207	(7)	1	2022 年第 4 四半期の売上収益は、バキスゼブリアを除くと 8%増加 (CER ベースでは 17%増加) -以下参照

疾患領域	100 万ドル	増減 (%)		
		実質	CER	
オンコロジー	4,046	4	12	主要な製品及び地域で高い業績
CVRM ⁶	2,284	12	22	フォシーガ 39%増 (CER で 52%増)、ロケルマ 50%増 (CER で 63%増)、ロキサデュスタット 61%増 (CER で 83%増)、ブリリンタ 1%減 (CER で 4%増)
R&I	1,485	(7)	(1)	ファセンラ、ブレーズトリ、サフネローの成長は、主に中国における VBP¹⁷ 実施の影響によるパルミコート⁶の 33%減 (CER ベースで 28%減) により相殺
V&I ¹⁸	1,163	(50)	(43)	- エバシエルドが 7 億 3,400 万ドル (2021 年第 4 四半期: 1 億 3500 万ドル) - バキスゼブリアが 9,500 万ドル (2021 年第 4 四半期: 17 億 6,200 万ドル)
希少疾患 ⁶	1,816	4	10	- ユルトミリスは、gMG の上市とユルトミリスへの移行の進展により 52%増 (CER ベースでは 62%増)、ソリリスの減少により相殺 - ストレンジックは患者需要の強さと販売地域拡大を反映して 24% 増 (CER ベースで 27% 増)
その他医薬品	412	(2)	12	
売上収益	11,207	(7)	1	

		増減 (%)		
バキスゼブリアを含む地域別売上	100 万ドル	実質	CER	
新興市場	2,733	(25)	(18)	• バキスゼブリアの売上減少による減収（バキスゼブリアを除く成長率を以下に記載）
- 中国	1,194	(9)	3	• CER ベースで 2 四半期連続の成長
- 中国以外	1,538	(35)	(29)	• バキスゼブリアの売上減少による減収
米国	4,788	22	22	
ヨーロッパ	2,308	(20)	(8)	• バキスゼブリアの売上減少による減収
既成市場 (RoW)	1,378	(11)	8	
バキスゼブリアを含む地域別売上収益	11,207	(7)	1	

		増減 (%)		
バキスゼブリアを除く地域別売上	100 万ドル	実質	CER	
新興市場	2,678	7	18	
- 中国	1,194	(8)	4	• CER ベースで 2 四半期連続の成長
- 中国以外	1,484	24	33	• オンコロジーと CVRM の力強い成長 • 第 4 四半期にエバシエルドで 2 億 4600 万ドル（2021 年第 4 四半期：6900 万ドル）
米国	4,788	24	24	• オンコロジー製品の成長
ヨーロッパ	2,268	(12)	1	
既成市場 (RoW)	1,378	4	27	
バキスゼブリアを除く地域別売上収益	11,112	8	17	

Table 2: 2022 年第 4 四半期の財務パフォーマンスの主要要素

メトリクス	報告ベース	報告ベース増減	コア	コア増減	コメント ¹⁹
売上収益	112 億 700 万ドル	実質 -7% CER 1%	112 億 700 万ドル	実質 -7% CER 1%	- バキスゼブリアを除くと 2022 年第 4 四半期の売上収益は、8%増加（CER ベースで 17%増加） - 詳細は Table 1 及び売上収益の項を参照
総利益率 ²⁰	73%	実質 13 pp CER 15 pp	77%	実質 3 pp CER 4 pp	+ オンコロジー、希少疾患領域の売上構成比の上昇 + バキスゼブリアの売上構成比の低下 - 為替変動によるマイナス影響 - エバシエルドの棚卸資産評価損及び製造中止費用の影響により、2022 年第 4 四半期の売上総利益が 3 億 3,500 万ドル減少 - プロフィット・シェアリング・アレンジメントによる影響（例：リムパーガ） - アレクシオンの在庫公正価値評価減による売上総利益率への影響
研究開発費	26 億 2,500 万ドル	実質 2% CER 9%	25 億 2,600 万ドル	実質 5% CER 12%	+ パイプラインへの投資拡大 • コア研究開発費の対売上収益比は 23%（2021 年第 4 四半期：20%）
販売費及び一般管理費 (SG&A)	46 億 2,100 万ドル	実質 -10% CER -3%	35 億 8,300 万ドル	実質 6% CER 15%	+ 最近発売された製品の市場開拓活動 + コア SG&A 対売上収益比率は 32%

					(2021 年第 4 四半期: 28%) 前年同期比は、2021 年下期と 2022 年下期のコストフェーズの違いの影響を受けている
その他の営業利益 ²¹	1 億 8,900 万ドル	実質 29% CER 1%	1 億 3,000 万ドル	実質-11% CER -7%	報告ベース及びコア OOI には、ウォルサム工場の売却益を含む
営業利益率	10%	実質 12 pp CER 14 pp	23%	実質- 4 pp CER -3 pp	売上総利益率及び経費のコメントを参照
金融費用純額	3 億 1,500 万ドル	実質-6% CER は安定的	2 億 4,500 万ドル	実質 5% CER 9%	買収関連負債の割引戻しによる報告ベースの影響額を計上
税率	-16%	n/m	10%	実質-7 pp CER -6 pp	- 当四半期の報告ベース及びコアの税率は、知的財産権に関する優遇措置、利益の地域的な構成、一時的なものを含む税負担の調整などを反映したもの - 税率の変動は四半期ごとに続く予想される
EPS	0.58 ドル	n/m	1.38 ドル	実質-17% CER -5%	

Table 3: 前回の決算発表以降のパイプラインのハイライト

イベント	製品	適応症/治験	イベント
薬事承認及びその他の薬事案件	イミフィンジ +/- イジユド	NSCLC (1 次治療) (POSEIDON)	薬事承認 (米国、日本)
	イミフィンジ + イジユド	肝細胞がん (1 次治療) (HIMALAYA)	薬事承認 (日本)
	イミフィンジ	胆道がん (TOPAZ-1)	薬事承認 (欧州、日本)
	リムパーザ	mCRPC ¹⁰ (1 次治療) (PROpel)	薬事承認 (欧州)
	エンハーツ	HER2 陽性乳がん (2 次治療) (DESTINY-Breast03)	薬事承認 (日本)
	エンハーツ	HER2 低発現乳がん (3 次治療) (DESTINY-Breast04)	薬事承認 (欧州)
	エンハーツ	HER2-陽性/HER2-低発現胃がん (2 次治療) (DESTINY-Gastric01, DESTINY-Gastric02)	薬事承認 (欧州)
	カルケンス	CLL ²² (ELEVATE-TN)	薬事承認 (日本)
	カルケンス	マレイン酸塩錠剤の剤型追加	薬事承認 (欧州)
	フォシーガ	HFpEF ²³ (DELIVER)	薬事承認 (欧州、日本)
	Airsupra	重症喘息 (MANDALA/DENALI)	薬事承認 (米国)
	テゼスパイア	充填済みペン型製剤	薬事承認 (米国、欧州)
薬事承認申請または受理	エンハーツ	HER2 変異 NSCLC (2 次治療+) (DESTINY-Lung01)	薬事承認申請 (欧州、日本)
	カルケンス	CLL (ASCEND)	薬事承認申請 (中国)
	Beyfortus	RSV ²⁴ (MELODY/MEDLEY)	薬事承認申請 (米国)
	ソリリス	NMOSD ²⁵	薬事承認申請 (中国)
主な第 III 相データリードアウト及びその他の展開	イミフィンジ	NSCLC (1 次治療) (PEARL)	主要評価項目未達成
	capivasertib	HR ²⁶ + /HER2 陰性乳がん (1 次治療) (CAPItello-291)	優先審査品目に指定 (米国)
	Orpathys + タグ リッソ	MET の過剰発現が認められた NSCLC (SAVANNAH/SAFFRON)	優先審査品目に指定 (米国)

	tozorakimab	ウイルス性肺感染症患者における急性呼吸不全の治療・予防 (TILIA)	優先審査品目に指定 (米国)
	サフネロー	特発性炎症性筋疾患	希少疾病用医薬品指定取得 (米国)
	エバシエルド	COVID-19 の曝露前予防措置	緊急使用許可の改訂 (米国) - エバシエルドは現在、FDA ²⁷ から通知があるまで米国では薬事承認されていない

コーポレート及び事業開発

2023 年 1 月、アストラゼネカは、抵抗性・非制御性高血圧症及び慢性腎臓病の新規治療薬の開発に注力する米国の臨床段階のバイオ医薬品企業である CinCor Pharma, Inc (CinCor 社) を買収する最終契約を締結しました。この買収により、治療抵抗性高血圧における血圧降下のためのアルドステロン合成酵素阻害剤である CinCor 社の候補薬 baxdrostat (CIN-107) が追加され、アストラゼネカの心腎パイプラインが強化されます。

アストラゼネカは CinCor 社の全発行済み株式を取引終了時に 1 株あたり現金 26 ドルの価格で取得する公開買付けを開始し、さらに特定の規制当局に baxdrostat を申請した場合に、1 株あたり現金 10 ドルが支払われる取引不可能な不確定価額受領権を伴います。前払い及び不確定価額の支払が達成された場合を合わせると、取引価額は最大で約 18 億ドルとなります。本買収取引の一環として、アストラゼネカは CinCor 社の貸借対照表に記載されている現金及び市場性のある有価証券 (2022 年 9 月 30 日時点で合計約 5 億 2,200 万ドル) を取得します。

2023 年 1 月、アストラゼネカは、がんを標的とした新たな細胞療法アプローチを提供する次世代 T 細胞受容体療法 (TCR-T) の創薬、開発および製造のパイオニアである世界的な臨床バイオテクノロジー企業である Neogene Therapeutics Inc. (Neogene 社) の買収を完了しました。アストラゼネカは、Neogene 社の発行済み株式を現金及び無借金で総額 3 億 2 千万ドルを上限として取得しました。これには、2 億ドルの初回支払いと、マイルストーンベースの及び無条件対価である最大 1 億 2,000 万ドルの支払いが含まれます。

2023 年 1 月の *Airsupra* の承認を受けて、アストラゼネカは Avillion 社に米国で *Airsupra* を商業化する意向を通知しています。Avillion 社との契約では、アストラゼネカは 1 桁台のロイヤリティと今後の売上や開発に応じたマイルストーンを支払うことになっています。

2022 年 12 月、アストラゼネカは、米国マサチューセッツ州ウォルサムの研究開発施設を、ライフサイエンスキャンパスの所有・運営・開発の大手である Alexandria Real Estate Equities, Inc. (ARE) に売却しました。ARE は、2022 年 4 月に発表されたマサチューセッツ州ケンブリッジのケンダル・スクエアにおける新しいアストラゼネカ研究開発センター及びアレクシオン本部の建設が完了するまでの 4 年間、この施設をアストラゼネカにリースバックします。

2023 年 1 月、アストラゼネカは、複合的な薬剤へのアクセス拡大を目的とし、技術に特化した製造企業である National Resilience, Inc. に対し、米国オハイオ州のウェストチェスターサイトの売却を完了しました。ウェストチェスターサイトは、引き続きアストラゼネカの医薬品を製造します

アレクシオン買収後のグループレビュー (PAAGR)

2021 年のアレクシオン買収に伴い、アストラゼネカはシステムと事業構造およびプロセスの統合、グローバルフットプリントの最適化、リソース配分と投資の優先順位付けを目的と

した包括的な見直しを開始しました。計画に基づき 2021 年末から 2022 年にかけて開始されたこれらの活動は、2025 年末までに実質的に完了する予定です。

2022 年中に、計画されている活動の範囲と予算詳細に検討した結果、プログラム期間中の一時的な構造改革費用の見込みが 5 億ドル（うち非現金費用 3 億ドル）、資本投資が 1 億ドル、2025 年末までの年間ランレート税引前利益の見込みが 7 億ドル増加しました。

また、当社が計画している Enterprise Resource Planning IT systems のアップグレードのための初期財務予測が完了し、ソフトウェア資産のための追加設備投資が 6 億ドル、一時的な構造改革キャッシュコストが 3 億ドルになると予想されます。この投資は、PAAGR に基づき、2030 年末までに実質的に完了する見込みであり、企業全体のコアプロセスの変革、システム構造の調和、デジタル機能の将来的な拡張を実現することで戦略上及びコンプライアンス上、大きなベネフィットをもたらします。

これにより、プログラム活動全体で約 29 億ドルの一時的な構造改革費用（うち約 19 億ドルは現金費用、約 10 億ドルは非現金費用）、及び約 9 億ドルの設備投資が見込まれます。

再投資前のランレートの税引き前利益は、2025 年末までに約 19 億ドルになると予想しています。従来の慣行に従い、構造改革費用はコア（非 GAAP）財務指標から除外されます。

2022 年中に、アストラゼネカは PAAGR に関連して約 7 億ドルの構造改革費用を計上し（2021 年は 10 億ドル）、このプログラムに基づくこれまでの累積費用は 17 億ドルとなりました。これらの費用のうち、7 億ドルは、主に影響を受ける資産の減損と加速償却から生じる非現金費用です。2022 年 12 月 31 日時点で、PAAGR は再投資前のランレートの税引前利益として年間 8 億ドルを実現しました。

サステナビリティの概要

2022 年 11 月、アストラゼネカは、2022 年医療アクセス指数で総合 3 位を達成しました。

2023 年 1 月、会長のレイフ・ヨハンソンは、シニア・エグゼクティブ・チームのマーク・デュノワイエ、デイヴィッド・フレドリックソン、イスクラ・レイックとともにダボスで開催された世界経済フォーラムに出席し、保健医療システムの持続可能性と強靱性のためのパートナーシップ（PHSSR: the Partnership for Health System Sustainability and Resilience）や持続可能な市場のためのイニシアチブ（SMI: the Sustainable Markets Initiative）などとの協力を通じて、より持続可能かつ公平なヘルスケアシステムを構築するための早期の集約された行動の必要性に焦点を当てました。

経営幹部の交代

グローバル・サステナビリティ担当 EVP 兼チーフ・コンプライアンス・オフィサーのカタリーナ・アゲボーグは、退任を発表しました。ジェフリー・ポット（チーフ HR オフィサー兼ジェネラルカウンシル）は、現在の職務に加え、チーフ・コンプライアンス・オフィサーとしての職務を担います。オペレーションズ&インフォメーションテクノロジー担当エグゼクティブ・バイスプレジデントのパム・チェンは、これまでの職務に加え、サステナビリティ戦略及びファンクションのリーダーシップを担います。

取締役会は、世界をリードするプラットフォームや科学に基づく目標に支えられて、アストラゼネカをサステナビリティのグローバルリーダーの一角に位置づけてくれたカタリーナの功績に感謝します。

営業及び財務の概況

本セクションの成長及び業績に関する説明はすべて実際の為替レートに基づいており、財務数値は特に断りのない限り、百万米ドル（m）単位で記載されています。別段の記載がない限り、本発表で示された業績は、2021年12月31日までの12カ月間（2021年度）と比較した2022年12月31日までの12カ月間（「年度」または「2022年度」）、あるいは2021年12月31日までの3カ月間（「2021年度第4四半期」）と比較した2022年12月31日までの3カ月間（「第4四半期」または「2022年度」）の業績を示しています。

コア財務指標である EBITDA、純有利子負債、売上総利益率、営業利益率及び CER は、当社グループの連結財務諸表から直接導出できないため、非 GAAP 財務指標となります。経営陣は、これらの非 GAAP 財務指標は、報告ベースの業績と合わせて提供することにより、投資家やアナリストに、当社グループの財務業績や状況を時系列で比較しながらより良く理解するための有益な補足情報を提供すると考えています。これらの非 GAAP ベースの財務指標は、GAAP に準拠して作成された財務指標に代わるものでも、優越するものでもありません。

コア財務指標は、以下のような特定の重要な項目を除外するよう調整されています。

- 無形資産の償却及び減損（減損の戻し入れを含むが、IT 資産に関連する費用を除く）
- 構造改革プログラムに関連する費用及び引当金（構造改革プログラムが資産化された IT 資産に及ぼす影響に関連する費用含む）
- アレクシオン社買収関連項目（主に買収した棚卸資産の公正価値調整と従業員株式報奨の差し替えによる公正価値の影響）
- その他の特定項目、主に企業統合の偶発対価に関連する帰属金融費用、法的解決、アレクシオン統合のための社内組織再編から生じる一時的な繰延税額控除
- 上記の調整による税効果は、コア税金費用から除外されています。

コア財務指標の性質に関する詳細は、有価証券報告書及び Form 20-F Information 2021 の 54 ページに記載されています。

本発表の財務業績の項に記載されている報告ベースの財務指標とコア財務指標の調整表を参照してください。

売上総利益率は、製品売上高から売上原価を差引いた売上総利益を製品売上高で除して計算されます。報告ベースの売上総利益率及びコア売上総利益率の計算では、提携収入及び関連費用の影響は除外されており、それにより製品売上高の基礎的な業績が反映されています。

EBITDA は、合併会社及び関連会社から生じたネット金融費用並びに減価償却費及び減損費用を控除した報告ベースの税引前利益と定義されています。本発表の財務業績の項に記載されている報告ベースの税引前利益と EBITDA の調整表を参照してください。

純負債は、現金及び現金同等物、その他の投資、並びに金融派生商品の純額を差し引いた有利子負債及びリース負債と定義されています。なお、本発表の要約連結財務諸表の注記 3 「ネット借入」をご参照ください。

当社は、投資家及びアナリストの皆様が単一の財務指標に依存することなく、アストラゼネカの財務諸表（その注記を含む）及びその他の利用可能な当社報告書を注意深く全体的に検討されることを強くお勧めします。

四捨五入の関係で、本発表におけるいくつかのドル数値及びパーセンテージの合計は一致しない場合があります。

売上収益

Table 4: 領域別製品売上

	2022 年通年				2022 年第 4 四半期			
			増減 (%)				増減 (%)	
製品売上	100万 ドル	対製品 売上合計 (%)	実質	CER	100万 ドル	対製品 売上合計 (%)	実質	CER
オンコロジー	14,631	33	13	19	3,746	33	9	18
- タグリッソ	5,444	12	9	15	1,342	12	2	12
- イミフィンジ ²⁸	2,784	6	15	21	752	7	19	27
- リムパーザ	2,638	6	12	18	689	6	10	17
- カルケンス	2,057	5	66	69	588	5	49	53
- エンハーツ	79	-	>4x	>4x	28	-	>3x	>3x
- Orpathys	33	-	>2x	>2x	(1)	-	n/m	n/m
- ゾラデックス	927	2	(2)	6	210	2	(9)	4
- フェソロデックス	334	1	(22)	(14)	74	1	(27)	(14)
- イレッサ	114	-	(38)	(34)	24	-	(32)	(24)
- アリミデックス	99	-	(29)	(24)	14	-	(57)	(50)
- カソデックス	78	-	(45)	(40)	16	-	(28)	(16)
- その他	44	-	(14)	(6)	10	-	(29)	(18)
バイオ医薬品: CVRM⁶	9,188	21	13	19	2,281	20	12	22
- フォシーガ	4,381	10	46	56	1,177	11	39	52
- ブリリント	1,358	3	(8)	(4)	338	3	(10)	(7)
- ロケルマ	289	1	65	75	81	1	50	63
- ロキサデュスタット	197	-	13	18	49	-	65	87
- オンデキサ ⁹	150	-	5	14	39	-	-	14
- クレストール	1,048	2	(4)	2	224	2	(13)	(2)
- セロケン/Toprol-XL	862	2	(9)	(4)	157	1	(23)	(12)
- ビデュリオン	280	1	(27)	(26)	73	1	(20)	(20)
- オングリザ	257	1	(28)	(25)	52	-	(31)	(24)
- その他	366	1	(10)	(7)	84	1	(13)	(6)
バイオ医薬品: R&I	5,765	13	(4)	-	1,447	13	(9)	(3)
- シムビコート	2,538	6	(7)	(2)	620	6	(9)	(2)
- ファセンラ	1,396	3	11	15	381	3	7	12
- ビレーズトリ	398	1	96	>2x	116	1	59	68
- サフネロー	116	-	>10x	>10x	48	-	>6x	>6x
- テゼスパイア	4	-	n/m	n/m	4	-	n/m	n/m
- パルミコート	645	1	(33)	(31)	166	1	(33)	(28)
- Daliresp	189	-	(17)	(16)	28	-	(52)	(52)
- ビベスピ	58	-	7	9	14	-	(5)	(1)
- その他	421	1	(29)	(27)	70	1	(53)	(47)
バイオ医薬品: V&I	4,736	11	2	8	1,129	10	(51)	(44)
- バキスゼブリア	1,798	4	(54)	(52)	85	1	(95)	(94)

- エバシエルド ⁶	2,185	5	>10x	>10x	734	7	>8x	>9x
- シナジス	578	1	41	59	194	2	(19)	(3)
- FluMist	175	-	(31)	(20)	116	1	(35)	(24)
希少疾患 ⁶	7,053	16	4	10	1,816	16	4	10
- ソリリス ⁶	3,762	8	(11)	(5)	844	8	(22)	(16)
- ユルトミリス ⁶	1,965	4	34	42	593	5	52	62
- ストレンジック ⁶	958	2	16	18	272	2	24	27
- コセルゴ	208	-	93	96	58	1	74	77
- カヌマ ⁶	160	-	16	19	49	-	45	44
その他医薬品	1,625	4	(5)	4	379	3	(7)	7
- ネキシウム	1,285	3	(3)	8	300	3	(9)	7
- その他	340	1	(10)	(7)	79	1	(1)	5
製品売上	42,998	97	18	24	10,798	96	(6)	2
提携収入	1,353	3	54	56	409	4	(20)	(19)
売上収益	44,351	100	19	25	11,207	100	(7)	1

Table 5: 提携収入

	2022 年通年				2022 年第 4 四半期			
	100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)		100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)	
			実質	CER			実質	CER
エンハーツ: 提携収入 ²⁹	519	38	>2x	>2x	187	46	>3x	>3x
テゼスパイア: 提携収入	79	6	n/m	n/m	37	9	n/m	n/m
リムパーザ: 薬事上のマイルストーン	355	26	n/m	n/m	105	26	n/m	n/m
Tralokinumab: 売上高マイルストーン	110	8	n/m	n/m	-	-	-	-
バキスゼブリア: ロイヤリティ	76	6	19	16	10	2	n/m	n/m
その他のロイヤリティ収入	72	5	(42)	(41)	17	4	(75)	(74)
その他の提携収入	142	10	49	69	53	13	>10x	>10x
合計	1,353	100	54	56	409	100	(20)	(19)

Table 6: 領域別売上収益

	2022 年通年				2022 年第 4 四半期			
	100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)		100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)	
			実質	CER			実質	CER
オンコロジー	15,539	35	15	20	4,046	36	4	12
バイオ医薬品 ⁶	20,010	45	5	11	4,932	44	(17)	(9)
- CVRM ⁶	9,211	21	13	19	2,284	20	12	22
- R&I	5,963	13	(1)	3	1,485	13	(7)	(1)
- V&I	4,836	11	1	8	1,163	10	(50)	(43)
希少疾患 ⁶	7,053	16	4	10	1,816	16	4	10
その他	1,748	4	(4)	5	412	4	(2)	12
合計	44,351	100	19	25	11,207	100	(7)	1

Table 7: 地域別売上収益

	2022 年通年				2022 年第 4 四半期			
	100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)		100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)	
			実質	CER			実質	CER
新興市場	11,745	26	(4)	1	2,733	24	(25)	(18)

- 中国	5,792	13	(4)	-	1,194	11	(9)	3
- 中国以外	5,953	13	(5)	1	1,538	14	(35)	(29)
米国	17,920	40	47	47	4,788	43	22	22
ヨーロッパ	8,738	20	9	21	2,308	21	(20)	(8)
既成市場 RoW	5,948	13	22	40	1,378	12	(11)	8
合計	44,351	100	19	25	11,207	100	(7)	1

Table 8: 地域別売上収益（バキスゼブリアを除く）

	2022 年通年				2022 年第 4 四半期			
	100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)		100 万 ドル	対合計 (%)	増減 (%)	
			実質	CER			実質	CER
新興市場	10,940	25	10	16	2,678	24	7	18
- 中国	5,746	13	(4)	(1)	1,194	11	(8)	4
- 中国以外	5,195	12	31	41	1,484	13	24	33
米国	17,840	40	47	47	4,788	43	24	24
ヨーロッパ	8,372	19	19	33	2,268	20	(12)	1
既成市場 (RoW)	5,323	12	24	43	1,378	12	4	27
合計	42,476	96	27	34	11,112	99	8	17

注：

- 恒常為替レート（Constant exchange rates, CER）。実質増減と CER 増減の差は、2022 年対 2021 年の期間中の為替変動によるものです。CER 財務指標は、報告ベース業績から為替変動の影響を取り除くため、一般に公正妥当と認められた会計原則（GAAP）に基づく会計処理によるものではありません。
- 報告ベースの財務指標は、英国で採用されている国際会計基準及び国際会計基準審議会（IASB）が公表している国際財務報告基準（IFRS）、ならびに欧州連合が採用している国際会計基準に従って表示されている財務結果です。
- Earnings per share：1 株当たり利益
- コア財務指標は、特定の項目を除くために調整されています。報告ベースとコア財務指標との差異は、主にアレクシオン買収に関連する項目、無形資産償却費、減損損失、構造改革費用、及び既に開示したとおり、中外製薬との和解に関連する引当金繰入額によるものです。この和解により、2022 年第 2 四半期に 7 億 7,500 万ドルが支払われました。報告ベース EPS とコア EPS の調整表は、本資料の業績セクションの Table 11 及び Table 12 に記載されています。
- Cardiovascular, Renal and Metabolism：循環器・腎・代謝領域
- 2022 年度のアレクシオン買収品目の成長率は、前年同期比のプロフォーマベースで算出したものです。2022 年度では、コセルゴの総売上を希少疾患（2021 年度：がん）に、オンデキサの総売上をバイオ医薬品：CVRM（2021 年度：希少疾患）に含めています。各疾患領域の成長率は、これらの変更が 2021 年度に実施されたものとして計算されています。
- Respiratory & Immunology：呼吸器・免疫領域
- COVID-19 の医薬品は、バキスゼブリア、エバシエルド、そして現在開発中の COVID-19 抗体である AZD3152 です。
- アストラゼネカは、MSD（米国及びカナダでは Merck & Co, Inc.）と共同でリムパーザの開発及び商業化を行っています。
- Metastatic castration-resistant prostate cancer：転移性去勢抵抗性前立腺がん
- Human epidermal growth factor receptor 2：ヒト上皮成長因子受容体 2
- HCC - Hepatocellular carcinoma：肝細胞がん
- Non-small cell lung cancer：非小細胞肺がん

14. Mesenchymal-epithelial transition : 間葉系-上皮系転移
15. Long-acting antibody : 長時間作用型抗体
16. パキスゼブリア は、当社がアストラゼネカ COVID-19 ワクチンを供給するためのアストラゼネカの商標です。本報告書の財務表では、「パキスゼブリア 総売上」には、独自の商標でアストラゼネカ COVID 19 ワクチンを製造・供給するサブライセンシーからの提携収益が含まれています。
17. Volume-based procurement : 数量ベース調達
18. Vaccines & Immune Therapies : ワクチン・免疫療法
19. Table 2 において、プラスとマイナスの記号は、議論されている項目の方向性の影響を示します。例えば、研究開発費のコメントの隣にある「+」記号は、その項目が前年度に比べて研究開発費を増加させたことを意味します。
20. 売上総利益は、売上収益から売上原価を差し引いたものと定義されています。報告売上総利益率及びコア売上総利益率の算出にあたっては、協業収入の影響を除外しています。
21. アストラゼネカが医薬品または新薬候補の重要な継続的権益を保有していない場合、売却による収益は、当社の財務諸表において報告対象及びコアのその他の営業収入及び費用に計上されています。
22. Chronic lymphocytic leukaemia : 慢性リンパ性白血病
23. Heart failure with preserved ejection fraction : 駆出率が保持されている心不全
24. Respiratory syncytial virus : 呼吸器系シンシチアルウイルス
25. Neuromyelitis optica spectrum disorder : 視神経脊髄炎スペクトラム障害
26. Hormone receptor : ホルモン受容体
27. US Food and Drug Administration : 米国食品医薬品局
28. イミフィンジの売上高には、2022 年第 4 四半期に開始したイジュードの売上高が含まれています。
29. 提携収益（以前は売上総利益の分配と呼ばれていました）は、アストラゼネカが利益分配を受ける権利を有する提携契約から生じる収益で、アストラゼネカがある地域における製品化を主導する製品売上は含まれません。提携収益は、提携収入に含まれています。

* * * * *

アストラゼネカについて

アストラゼネカは、サイエンス志向のグローバルなバイオ・医薬品企業であり、主にオンコロジー、希少疾患、循環器・腎・代謝疾患、呼吸器・免疫疾患からなるバイオ・医薬品において、医療用医薬品の創薬、開発、製造及びマーケティング・営業活動に従事しています。英国ケンブリッジを本拠地として、当社は 100 カ国以上で事業を展開しており、その革新的な医薬品は世界中で多くの患者さんに使用されています。詳細については <https://www.astrazeneca.com> または、ツイッター [@AstraZeneca](https://twitter.com/AstraZeneca)（英語のみ）をフォローしてご覧ください。

日本においては、主にオンコロジー、循環器・腎・代謝、呼吸器・免疫疾患及びワクチン・免疫療法を重点領域として患者さんの健康と医療の発展への更なる貢献を果たすべく活動しています。アストラゼネカ株式会社については <https://www.astrazeneca.co.jp/> をご覧ください。フェイスブック [AstraZeneca Japan](https://www.facebook.com/AstraZenecaJapan) とインスタグラム [AstraZeneca](https://www.instagram.com/AstraZeneca) / [アストラゼネカ](https://www.instagram.com/AstraZeneca) もフォローしてご覧ください。